



IV-JAPAN

NEWS [NO.10] 2008.6.30 発行

1. 感慨深い20周年を迎えて

(特活) 国際協力NGO・IV-JAPAN 代表理事 富永幸子

今年の5月1日でIV-JAPANは会創立20周年を迎えました。私が1980～81年にかけてタイに住んだことがきっかけとなり、帰国後、IV-JAPANを設立しました。私は日本でガールスカウト活動に長年参加しておりましたので、タイでもタイ・ガールガイド(スカウト)連盟でトレーナーとして人材育成や地域開発にかかわりました。帰国後、「地球規模で考え、地域で活動する」をモットーに、すぐ実践に移すことを会のモットーとして活動を開始しました。



ラオス事業報告会(於・JICA地球ひろば)

1988年にタイで始まった国際協力活動は、1997年にIVタイ財団として認可されました。1994年には隣国ラオスへと活動を広げました。当会事務所のあるさいたま市(旧大宮市)に当時300人ほどのラオス難民村があり、彼らからの要望でした。

創立20周年おめでとうございます

ラオス国大使館を代表して国際協力NGO・IV-JAPANの創立20周年という歴史的な好機に皆様にご挨拶をさせていただくことを光栄に存じます。1994年以来、貴会のラオス国に対する社会開発、特に教育、人材育成分野における協力・援助は大変有益なものです。貴会のラオスにおけるプロジェクトや事業は、日本とラオスの両国民の間に長年の友情と信頼を構築し、また、今後も強い絆で結ばれることと確信しております。

この機会に今一度ラオスへのご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。

IV-Japanの皆様のご健康とすばらしい事業のご成功をお祈りしてご挨拶とさせていただきます。

在日本ラオス国大使
特命全権大使 シトン チットホッティン

ラオスでは人材育成が必要と感じ、最初のプロジェクト地は山岳民族の多く住むシェンクアーン県で山岳民族の少女を対象に縫製と織物の職業訓練を行い、同時に識字教育も行いました。シェンクアーン県の職業訓練及び農村開発事業は10年間続きました。

2000年にはヴィエンチャン市にも職業訓練所を建て、縫製、理美容、調理、家具の職業訓練を始めました。

今年は創立20周年を記念して「職業訓練生徒・講師寮」が日本NGO支援無償資金を得て完成し、ラオスで3月28日に引渡式を行いました。今後は宿泊を必要とする地方から57名の訓練生と5名の講師が宿泊できるようになります。寮には障害者用の部屋もあります。2つ目の周年行事としてラオス人職員ルアン君を招聘して、3ヶ月間日本で日本料理の研修をしました。

当会の特徴は多くのボランティアに支えられていることでしょうか。20周年式典にご参集いただいたJICA様はじめ、埼玉県国際交流財団、資生堂(株)、東芝国際交流財団、倫理研究所、東京ウイライオンズクラブ、講師派遣をいただいているオーストラリア・ビジネス・ボランティア協会、タイの資生堂関連会社OCCからタイ人の美容トレーナー、日本料理は元神戸クッキング・スクールの退職先生たち他、個人のたくさんの方たちです。また、91歳になる母にも感謝です。

20年の長い間活動が続けられたのは皆様のおかげです。自分でも信じられないくらいです。人的にも経済的にも危機的な場面でいつも誰かに助けられました。

皆様のご協力に感謝し、今後もアジアの途上国の人々の幸せのために働きたいと思います。

ヴィエンチャン市職業訓練生徒寮完成及び会創立20周年おめでとうございます。2000年以来ヴィエンチャン市職業訓練センターでは縫製、理美容、調理、木工家具のような多種にわたる職業訓練を実施していらっしゃいました。しかしながら、宿泊施設が無いと、遠方の希望者が訓練に参加するのは難しいことでした。生徒寮の完成により、遠隔地に住む青年・女性たちに知識と技術を学ぶ機会を提供できるようになりました。ラオスの職業訓練向上にもさらに寄与することができるでしょう。

加えて、IV-JAPANの創立20周年という大変重みのある機会にお招きを受けて光栄に存じます。貴会は1994年以来ラオスの人々を援助し、ラオスの開発のために多大な貢献をしていることはよく承知しております。

長年の貴会のラオスに対する支援に対し尊敬の念とともに今後もラオスの人々のために事業をご継続なされることを願っております。最後にわが国とラオスの友好及び協力が今後も発展することを祈っております。

在ラオス日本国大使館
特命全権大使 宮下正明

2.20周年記念事業

ヴィエンチャン職業訓練生徒・講師寮完成

旧建造物が撤去され、突然現れたフレンチコロニアル風の堂々とした建物に、市民はびっくり。市の中心地であり、空港への道でもあるので、旅行者や多くのラオス人に注目されている。同寮の設計を担当した資生堂開発(株)の建築士の2名も2月21日からラオスを訪れ、完成まじかの「職業訓練生徒・講師寮」を視察。困難な条件の中想像していたよりも立派ですばらしい出来に感嘆。「今後もラオスの

ためにお役に立つことがあれば、ぜひ協力させてください」と言い残して視察をおえました。資生堂開発(株)及びお2人に心からお礼を申し上げます。5月5日の新学期からは地方の訓練生が大喜びで寝泊りしています。当会も訓練生受け入れを全国に広げることができ、画期的な20周年事業となりました。



完成した生徒・講師寮右はヴィエンチャン職業訓練所



資生堂開発(株)の建築士牧野さん(左)と太田さん

3.彩の国さいたま国際協力基金事業

「彩の国さいたま国際協力基金」の助成金を受け、2007年度で3回目となる「ラオス青少年のためのスポーツ教育振興事業」を実施しました。この事業の目的は、近年ラオスで社会問題となっている青少年の飲酒や非行をなくすため、学校教育における体育を通して、青少年の健全な育成を図るものです。ラオスにおいて、適切な体育の授業のカリキュラムが確立しておりません。この事業では、それらの体育教師にスポーツ教育ワークショップを開催し、参加した20名の中高等学校の体育サッカー、バレーボール、バドミントン、セパタクロ等のラオスで人気の高い競技の正式なルール等を学びました。また、この事業では、中高等学校にバドミントン、セパタクロ兼バレーボールコート建設しました。建設したナーサイトン中高等学校の生徒より完成したスポーツコートに対して同中高等学校の生徒より感謝のお手紙を頂いたので、紹介させていただきます。



バレーボールをする体育教師たち

私の名前はトリムパン 11年生(高校3年)です。このナーサイトン中高等学校の生徒を代表して、スポーツコート建設やサッカーボールやバレーボールのスポーツ用具等の寄贈に対しお礼を申し上げます。この援助のおかげで学校の体育が大変盛んになり、生徒みんなが大変喜んでます。僕も一生懸命スポーツをし、丈夫な体を作っていきます。有難うございました。

4. 東京ウイル・ライオンズ・クラブ ～スタディーツアー(2月6日～2月10日)～

東京ウイル・ライオンズ・クラブは都内でも数少ない女性だけのクラブです。メンバーの中に富永代表の小学校と高校の同級生がいることから、ラオス支援が始まりました。

ラオス スタディーツアーに参加して

☆ 伊藤麻記子 (東京ウイルライオンズクラブ)

今回私はライオンズクラブの会員の母のお供をしてラオスを訪問しました。ラオスの IV ジャパンを通して、職業訓練所・ナーケオ小学校に伺いました。

一番印象的だったのはどこに行ってもシャイで澄んだ目をした子供達が私達を温かく迎えてくれたことでした。しかし全てに共通して言える事は物資が足りないという現実でした。ライオンズクラブの支援で掘られた井戸により、小学校の子供達のみならず、周辺住民の方々にも潤いが増したといえます。新鮮な水を得た事により、学校で水浴びもできるようになったそうです。日本では当たり前の事がラオスでは貴重な事だと知りました。

そして私には一体何が出来るかと考えました。私が今回見てきた事や感じた事をありのままに伝える事。

「ラオス」という国を一人でも多くの方に知ってもらいたいと思いました。

☆ 小松原環子 (グローバル研究員)

2月6日から11日、4泊5日の旅とは思えないほどの充実した内容だった。この時期ラオスの一番良い季節。朝夕は少々ひんやりし、日中は日差しは強いが湿度はなくとても快適だった。今回の旅の目的は、東京ウイルライオンズ、クラブの方々が NGO の組織である IV-JAPAN に寄付をし

今回は過去に支援したナーケオ小学校の井戸事業の視察と、おりしも実施中の2007年度支援事業「家具職業訓練一中級コース」を見学しました。

職業訓練所の手助けや現地のナーケオ小学校の校庭に井戸を掘り役立ててもらっているのも、それらを実際に見学することだった。広々とした校庭の隅に皆様の心のこもった井戸が竹で囲われ使われていた。村長さんはじめ子供たちも先生方も集まり、鉛筆やノートのおみやげを手渡し、一緒に写真を撮り、和やかに交流した。

中国、ベトナム、カンボジア、タイ、ミャンマーの5か国に囲まれた内陸の穏やかな仏教国ラオス。20歳になると男子は仏門に入り修行し、親や祖先を敬うこと等身に付けるという。早朝僧侶の托鉢も見学し、ご飯を籠に入れてあげた。仏教に根ざした日常の姿に触れ今の日本の若者は、確かな精神的基盤に欠けているのではないだろうかと感じる。学びたい外国語の第一は日本語というラオス。アジアの中で先進国日本の役割は大きい。それに対応できる未来の担い手を育成することは重要な課題だと思う。赤土色のメコン川。世界遺産の街ルアンパバン、仏領だったゆえに凱旋門もあり、多くの寺院が散在する首都ヴィエンチャン。滅多に行けない国を訪れることができラッキーだった。富永様、福永様に感謝いたします。



写真左：東京ウイルライオンズクラブと練馬ライオンズクラブ有志により寄贈された3本取りロックミシン



写真上：東京ウイルライオンズクラブの支援により掘られた井戸に練馬ライオンズクラブの松尾志朗様、尾崎美信様、橋本直勝様、東京ウイルライオンズクラブの小川晶子様ご寄贈により設置された屋根。

5. JICA 草の根パートナー「職業訓練」事業

～ユニークな上級コース “オン・ザ・ジョブ・トレーニング” (OJT) ～

当会の職業訓練上級コースの特徴はオン・ザ・ジョブ・トレーニングにより、訓練生がレストラン、ブティック、美容院、マッサージの各店舗経営者になり、専門技術はもとより、接客サービス、会計簿の記録、衛生、広報活動等、OJT 店舗で実際に実習しながら、経営ノウハウを学びます。収益は訓練生のものになるので、皆嬉々として働いています。当初上級コースの企画の段階で、訓練生を引き受けてくれる店や企業を探しましたが、それが中々簡単には行かないことが分かり、それで訓練所独自に店舗を構えることにしました。2004年に始まったOJT事業は、特別授業や集会等に使用していた訓練所1階の多目的ホールに美容院とブティックの展示スペースを確保、レストランは職業訓練所の玄関先に屋根だけを作って、オープンエアのレストランを設置、さらに玄関の通路に4人用のテーブルを3台置き、さらにお客さんが増えると多目的ホールに10人用のテーブルを足して、団体さんにも対応しました。OJTの訓練所がヴィエンチャン都教育局の敷地内にあるため、一般客は入りづらく、集客数が伸びません。そこで同じ敷地内のゲート近くにある家具訓練所を郊外に移転して、そこをOJT店舗に改装して、4月によく開店いたしました。開店までに諸官庁の許可を得るのに半年も掛かりました。プロセスをご説明しますと、まずカウンターパートのヴィエンチャン都教育局(VED)との月1回行われる運営委員会に議題として提出し、OJT店舗改装図面、外看板のデザイン・設置場所等の検討、営業時間、メニュー特に酒類の販売等、VEDの協議というより了解を得ると、VEDは関係機関(ヴィエンチャン都公共事業局・交通局、情報文化局等)の許可を取り、建設実施となります。今回は最初に看板に使用した当会正式名「国際協力NGO・IV-JAPAN」のNGO=Non Governmental

～ノヴォテル・ホテルでの接客研修～

ヴィエンチャン職業訓練所は市の中心地にあり、お隣がラオスでも数少ない4星ホテルのノヴォテル・ホテルです。空港へも近く、旅行者ははじめ多くのラオス人の目に留まる最適地です。昨年からの当会の長期滞在のボランティアや訪問者を特別料金でホテルに滞在させていただいております。お隣なので、車の送迎も不要のため、オーストラリア・ビジネス・ボランティア(ABV)や日本人・タイ人ボランティア講師の宿泊に利用しています。



Organization(非政府機関)をOFFICE(事務所)に変更するようとの指摘がありました。社会主義国のラオスは国際NGOは認めても自国民にNGOを組織することは認めません。こちらでも正式名称を変更するわけにはいきませんので、デザインを書き直し、情報文化局の看板設置許可を得て、半年振りに移転できたのでした。



苦労のかいあって4月に新装オープンし、この3ヶ月で月平均集客数は654人ですので、昨年度の移転前の月平均370人を大幅に上回っています。お客さんが来ないと訓練も出来ないのも、移転して大成功です。

(写真上：新店舗の前で訓練生たち)

毎回調理中級コースではスタディツアーをノヴォテル・ホテルに引き受けてもらい、食堂の接客やキッチンの見学等をさせていただいています。他のホテルにもお願いしたことはありますが、ホテル支配人の許可が出てもチーフコックの反対で断念したこともあります。研修生は見学前にホテルから衛生面や接客等について説明を受けますが、同時にジュースやクッキーも供され、緊張した面持ちで美味しいお菓子に手をつけます。冷菓を調理する冷凍調理室に驚き、厳しい衛生面を見てはじめて講義で勉強したことを理解します。

4月からの第2期上級コースのOJT研修は2人1組で2週間づつノヴォテルのレストランでウェイトレスの研修を始めました。中級コース時代に一度見学していますが、研修生の制服を支給され、名札もつけると、入ったこともない一流ホテルのレストランでお客さん相手にコチコチの様子です。訓練所の時と違ってお化粧品もばっちり結構「サマ」になっていました。(写真)プロの厳しさを学んで「つかれたー！」と帰ってきますが、昼食も無料で支給され、2週間では足りない、もっと勉強したいと、楽しそうです。ノヴォテル・ホテルにはこのような機会を提供させていただいて大変感謝しています。

(写真左：ノボテルホテルにて研修中の訓練生2人)

6. さいたま市水道局有志助成事業

さいたま市水道局有志による、ラオス支援は2回目となりました。ラオスに水道の専門家として派遣された同水道局の川島康弘さんが帰国後職場の有志に呼びかけて、さいたま市国際友好フェアバザーに皆で家庭から持ち寄り、販売した収益金を全額ラオスの学校井戸設置に協力しています。2007年度はナーティム中等高等学校（生徒数581名）の既存のつるべ井戸にモーターとタンク塔、そして校庭の6ヶ所に水道の蛇口を設置しました。今年6月にはチャリティ・コンサートを計画して今年度の資金づくりを行いました。皆様のご努力に感謝いたします。



タンク塔

7. 読者からのお手紙

😊 和歌山テクサの会

街のあちこちでクリスマスのイルミネーションが、きらびやかな光を放ち華やぐ頃となりました。スタッフの皆様にはお元気でお忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。2002年11月ラオススタディツアーに和歌山から坂本三代さんと、現ガールスカウト日連会長の石井さんと、3人で参加させていただきました岩橋です。ツアーの折は富永さん始め、スタッフの皆様にご世話になりました。充実した意義ある旅を皆様と一緒にできましたこと、とても大切な思い出となっております。

すでにご存知のことかと思いますが、坂本三代さんは2006年5月に亡くなられ、ガールスカウト和歌山県支部の創始者で、多くの少女そして優秀な指導者の育成に生涯を捧げられた坂本さんの熱い思いを引き継いでいくために、8月に開かれた「坂本さんを偲ぶ会」と同じ日に私どもも「テクサの会」を立ち上げました。未来ある子供たちの応援団として、また会員も様々なことに楽しみながら出会うしていきたいと考えています。付きましては、ささやかな額ですがテクサの会費からカノック奨学金として送金させていただきますのでご活用ください。

寒くなります、皆々様お身体大切にささいまして、良いお年をお迎え下さいませ。

平成19年12月15日

テクサの会事務局 岩橋

😊 大竹千歳さん



寄付を受け購入したロックミシン

(1通目) ラオス訪問の思い出に金10万円の寄付をさせていただきます。今日訪れた学校で子供たちのあの笑顔に出会っていっぱい学ぶものがありました。あの笑顔は一生忘れないでしょう。電動ミシンを買っていつまでも役立てていただけたら幸せです。

平成19年11月23日

(2通目) 創立20周年記念事業のラオス事業報告会、大変でしたね。ご苦労様でした。IV-JAPANの創立の経緯などパネルを見てよく分かりました。小さな一歩が、富永さんのご尽力で毎年々々一つずつ蒔いた種が、20年間で大木となって沢山の実をいっぱい付けて花開こうとしているようですね。

ラオスの子供たちは透明感があって、教えられることが大でした（ラオスに行つて）。今回日本でルアンさんにお部屋をお貸しして、ラオスでも一番縁があつて

再びご縁ができたことを感謝しています。どのような国の人でも素敵な人に出会えるというのはうれしいものですね。国がどんどん発展していくのはよい

のですが、そのことで人間の心が失われていくことが多いので、ラオスの子供がいつまでも今のような心を持っていてくれますように…と願わずにはおれません。

ルアンさんのような青年に少しでもお役に立てたことうれしく思っています。ルアンさんが日本語をマスターするまで

（ラオスに於いて）月謝は私が責任を持ってお払いいたします。仕事をしながらの日本語の勉強なのできっと大変だろうと思いますが、「くじけないように頑張って最後までマスターしてください」と伝えて下さい。私の母が倒れてから4年経ちますが、ようやく少し落ち着き自宅の整理にとりかかっています。毎日眠る暇がなく、バタバタと動き回っています。少しおちついて生活にゆとりができたなら、またラオスへ行きたいと考えています。富永さんもこれからきっとご苦労多いことと思いますが、どうぞお身体には充分気を付けてラオスの人達のためにこれからもご尽力下さいませ。

平成20年6月22日 大竹千歳

（編集部注：途中省略させていただきました）

8. アサマコーポレーション株式会社ご寄付

東京都中野区に本社がありますアサマコーポレーション株式会社様より50万円のご寄付を頂きました。同社は化粧品を製作している会社です。右写真は麻沼雅海社長と富永代表。



9. 職業訓練事業の力強いサポーターである講師の方たちの紹介



調理コースの高倉昌子先生。上級コース（OJT）でケータリングやレストランの運営について指導して頂きました。ラオス人トレーナー日本研修にも50日間お世話になりました。



調理コースの宇野薫先生。神戸ッキングスクールの講師を務め、英語も堪能で、中級コースの日本料理をととても熱心且つ丁寧に指導して頂きました。



オーストラリア専門家派遣団体（ABV）より招聘し、調理中級コースの西洋料理を指導したヨースト・デンハン先生



調理コースではお菓子、縫製ではビーズや小物を指導した、ブルネイ大使夫人のマリア先生



理美容コースのマッサージのためラオス国立リハビリテーションセンターより招聘したブンスー先生。



タイのOCC（資生堂関連会社）より派遣されたクンノイ先生。ノイ先生は理美容中級コースを指導しています。



写真左：理美容コースで指導して下さる美容師の堀井雅由美先生。



オーストラリア専門家派遣団体（ABV）より招聘し、縫製中級コースを指導したグロリア先生



縫製コースで指導し、バッグや小物等を教えてください、日本事務局のボランティアも務める関矢先生。



昨年11月に上級コースの縫製コースを指導して下さった小林さんと須貝さん



各種上級コース（OJT）にて、日本語を指導したタイ人のペット先生、チェンマイ大学に現在通っています。



学校制度外教育局から招聘し、中級コースでビジネスマネジメントについて指導するタンダー先生。



写真左：各種上級コース（OJT）にて、ビジネスマネジメント講師として、ABVより招聘したケン先生。とても、やさしく指導し、訓練生の人気者でした。

10. 幸子のラオス便り NO. 16(2008年6月30日)

～40年ぶりにネパールを訪れて～

1968年に総理府の日本青年海外派遣でアフガニスタン、パキスタン、インド、ネパールを訪問しました。当時のネパールは路上で売っているりんごもとても小さく、品種改良もしていないようなすっぱいものでした。首都のカトマンズでもホテルは皇太子の住居をユースホステルにした1軒だけで、水のシャワーだったことを覚えています。今回の訪問はラオスで10年間国際学校で教えていたビナ・シュレスタ先生の息子が結婚するというので、ネパールの結婚式に参加するため40年ぶりの訪問となりました。



1月のネパールは日本よりも寒く、ホテルに冷房はあっても、暖房設備は無く、風邪をひいてしまいました。ネパールにはたくさんの種族があり、ネワール族に属するビナー家は伝統を重んじ、伝統に則って1週間も結婚式の行事が続きました。お陰で毎日同じ顔ぶれの親戚の人たちと一緒に、私も毎日サリーを着てすっかり家族の一員になりました。自宅でもホテルでも中庭では焚き火を炊き、テーブルにつかずに、皆寒いので焚き火の周りに集まってくるのです。また、カトマンズには世界遺産がたくさんあり、いくつかの寺院や町を見ることが出来ました。全く中世のような雰囲気に人々が生活を営んでいて感動しました。チベット寺院ではチベットの難民たちが熱心に寺院の周りをお経を唱えながら三周しています。老女2人がとても幸せそうな顔をしています。最近ドラマの本を数冊読み、穏やかなチベット人気質は信仰から来ているのかと想像をめぐらしました。

カトマンズはすっかり変わり、狭い道をたくさんの車が競って走り、とても怖く感じました。どんどん増え続ける人口に水道の供給が追いつかず、皆不便をしているようです。デモも毎日目撃し、帰国の朝は道路が遮断されてホテルから空港まで歩かなければなりません。でもラオスと比べるとデモが出来るということはもっと民主的なのだと思います。王政が廃止されたネパールに早く穏やかな平和の日が来ることを願っています。

～ラオスの日本人補習校の体験教室～

日本では小学校や中学校では体験教室が盛んで、日本の伝統文化などを学ぶ機会があります。海外にいと日本文化を子どもたちに伝えたいと余計に親御さんたちは感じるのでしょうか、「茶道」の体験教室を頼まれ、唯一ラオスで日本間のあるラオス日本センターで小中学生13人を対象に、茶道の心得のある日本人に協力していただいて実施しました。子どもたちは1回目はお客さんとなり、2回目は自らお茶を点て、同行した先生や父兄に差し上げました。お点前の経験はもとより、茶道がアジアの影響をたくさん受けているのに感激し、今生活しているラオスとも関わりがあることを知って、驚いたようでした。先生や父兄からも子どもたちにとってすばらしい体験だったので、今後も協力してほしいと頼まれました。



～ラオスで再会した同級生たち(左写真)～

伊藤さん(左)は小学校の、福永さん(右)は高校の時の私(中央)の同級生。とくに還暦を過ぎた3人だけれど、いまだ現役で活躍しています。伊藤さんは社交ダンスの先生をしながら、地域でハワイアン・ダンスの同好会を指導しています。福永さんはNPOグローバル研究会(英語教育研究会)の理事をしながら、幼稚園児に英語を楽しく学ぶ指導をしています。ラオスでは子供の頃の思い出や同級生の動向、私の高校時代のエピソードなどの話に盛り上がりました。しかし、毎晩ホテルではライオンズの参加者たちでラオスへの支援のあり方について真剣な討論が深夜まで続きました。

11. タイ財団理事会報告



タイ財団では今年1月のアンパイ会計担当理事(写真左)の死去に伴い、後任を選任してバンコク市に届け出る必要があり、富永の日本一時帰国にあわせて、2月にバンコクで理事会を開催しました。会計担当理事にはパニー女史(ガールガイドタイ連盟)を、さらに追加理事としてDr. ディーチャー(タマサート大学教授)が就任されました。又、2008年度のタイ学生への奨学金支給は40名と決定しました。アンパイさんは1980年以來の富永の古い友人で、タイ財団を設立する際にも大変尽力されました。ご冥福をお祈りいたします

カノック奨学金ドナー紹介 (2007/11/1 から 2008/6/30 まで) 順不同

治田佳子 (2口)、佐藤美津子 (8口)、菊原享子 (2口)、栗原敏子 (3口)、白川誠之、小川昭子、木暮秩・道子
田中恵子、高石順子、武藤廣子、西条喜子、伊藤裕子 (3口)、近藤利雄 (2口)、森 典子、上原道子、飯田昌美
市川和良、小林 彩、岩谷良秋、田村福代、玉寄明美、野口正晴、小林愛子、謝花恵子 (2口)、佐々木孝子
金指五郎、塩川悠子 (2口)、北條鎮雄、稲葉純子、宗像邦司、田中えいこ (3口)、GS大阪府73団、河島一郎
GS 千葉45団、中村英一、佐藤文子、松茂良米子 (2口)、町田 裕、奈良伊世、込山まち子、嶋 美喜子 (4口)
入澤恵子、八木道子、渡辺昭子 (2口)、泉 久子 (2口)、古柴睦美、宮下ひとみ、蛭間愛子、石黒 進 (5口)
國吉利弘、利根川恵子、五十嵐香苗、宮村 肇 (10口)、鈴木ミチ (3口)、高見沢啓二 (2口)、今井京子
三沢純子 (2口)、中田みどり (3口)、津本容子、藤井清司、大野歩・望、大野宏江、小林明子、小田切智子
足立毅平、沖野和利 (5口)、春日 曠 大高 巽、濱口敏行 (3口)、 国仲ヒデ、小林文子、鈴木利典、比嘉エリ子
根橋淑江、土屋多賀子、James A Cummings、土屋祥二、小林佳代子、小川昭子 (2口)、石井直子、嘉数和子、福永文代
石井有美、松永順平 (3口)、橋本多映子、伊東慶子、山口将行・洋子、渡辺伊久子、荒井みどり、外間邦子
伊藤睦子、賀元澄子、大橋國江 (2口)、岩月優子、羽山陽子、渡久地澄子 (3口)、藤田カツノ、片岡啓子 (2口)
斉藤ふみ子、みどり幼稚園みどり会 (17口)、時田一枝、田中兼勝、悠遊筆禅会 (3口)、ウイメンズめぐろ、田上恵子
河合明弘

運営・プロジェクト費寄付者一覧

(2007/11/1 から 2007/6/30 まで。一万円以下は省略させていただきます。ご了承下さい。)

アサマコーポレーション株式会社 (50万円)、富永幸子 (66万円+\$2,206)、渡久地澄子 (10万円)、石黒 進 (1万円)
GS 和歌山テクサの会 (1万円)、高見沢啓二 (2万円)、富士ゼロックス (5万円)、河合明弘 (3万8千円)
(財) 埼玉県国際交流協会 (25万円)、東芝国際交流財団 (100万円)、吉原喜代 (1万円)、吉野美智子 (\$450)
高見沢啓二 (2万円)、ガールスカウト大阪第61団 (1万円)、大竹千歳 (25万円)、豊田利久 (B10,000)
さいたま市水道局有志 (\$900.07.8.23)、尾崎美信(練馬ライオンズクラブ) (5万円)、松尾志朗(練馬ライオンズクラブ) (5万円)
橋本直勝(練馬ライオンズクラブ) (5万円)、小川晶子 (東京ウィルライオンズクラブ) (5万円)、

~20周年記念行事寄付者一覧~ 順不同

(株) 中央流通研究所 (10万円)、吉野美智子 (5万円)、藤田商会 (5万円)、IV-JAPAN 千葉支部 (5万円)
富永幸子 (5万円)、(社) 倫理研究所 (3万円)、太田栄次 (2万円)、(株) アルナ (2万円)、塩島輝子 (1万円)
へアメイクアムール (1万円)、マロン商事 (有) (1万円)、(株) もといち (1万円)、(有) 近藤運送店 (1万円)
片岡啓子 (1万円)、(有) 渡邊土地建物 (1万円)、小内会計事務所 (1万円)、(株) サンユーさいたま (1万円)
吉原喜代 (1万円)、PHIL・コンサル (株) (1万円)、吉野会計事務所 (1万円)、伊藤裕子 (1万円)
(株) 埼玉交通 (1万円)、高橋さとみ (1万円)、斉藤加代 (1万円)、早坂健治 (1万円)、イトー設備工業 (1万円)
松尾歯科医院 (1万円)、(株) アサヒクリーンシステム (1万円)、小川晶子 (1万円)、栗田美和子 (1万円)
東洋アカデミー日本語学院 (1万円)、(有) 雪山堂 (1万円)、(株) クロス (1万円)、入江利恵子 (1万円)
(株) 三和システムフォーム (1万円)、渡久地澄子 (1万円)、大竹千歳 (1万円)、日本ラオス協会 (1万円)
窪村幸子 (1万円)、伊藤弘美 (1万円)、松木 (1万円)、山田絹子 (5千円)、関矢綾子 (5千円)
井藤尚子 (5千円)、(株) ファンシーフェザー (4千円)、(株) ワタコン (4千円)、根尾睦子 (4千円)
伊田保険事務所 (2千円)、岩崎金属興行 (株) (2千円)

—敬称略—



皆様のご協力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



<サポート会員募集>

奨学金ドナー及び国際協力費・運営費ドナーを随時募集しています。一人でも多くの皆様のご協力を宜しくお願い致します

① 奨学金ドナー 年1口 12,000円以上

② 国際協力費又は運営費ドナー ★個人 年1口 3,000円以上 ★団体及び法人 年1口 10,000円以上

・申込方法(銀行振込の場合は振込された方の氏名と会員番号の下4桁の明記をお願い致します)

郵便振替 : (口座番号) 00140-5-537168 (加入者名) カノック奨学金

銀行振込 : 埼玉りそな銀行浦和中央支店

(普通) 口座番号: 5038052 名義人: (特非) 国際協力 NGO・IV-JAPAN

【特定非営利活動法人 国際協力NGO・IV-JAPAN】

日本事務所

〒331-0058 埼玉県さいたま市西区飯田 426

TEL: 048-622-8612 / FAX: 048-625-0271

E-mail: iv-japan@vanilla.ocn.ne.jp

ラオス事務所

P. O. BOX 7920 VIENTIANE, LAO P. D. R.

TEL/FAX: +856-21-26-1240

E-mail: ivjapan@laopdr.com

<http://www6.ocn.ne.jp/~iv-japan/>